

学年	3・4年	教科	総合	単元名	デジタル紙芝居を作ろう
学校名	村山市立袖崎小学校			実践者	芦野 大介
本時の学習活動	地域の素材を生かしてデジタル紙芝居を作ろう。				
ICT 活用のねらい	【1 教員による活用】 <input checked="" type="checkbox"/> 1-1 興味関心を高める <input type="checkbox"/> 1-2 課題を明確につかませる <input checked="" type="checkbox"/> 1-3 思考や理解を深める <input type="checkbox"/> 1-4 知識の定着を図る		【2 児童生徒による活用】 <input checked="" type="checkbox"/> 2-1 情報を収集・選択する <input type="checkbox"/> 2-2 文や図表にまとめる <input checked="" type="checkbox"/> 2-3 発表したり表現したりする <input type="checkbox"/> 2-4 知識や技能の習熟を図る		
活用する機器・ソフト・コンテンツ等	使用機器		ソフト・アプリ	コンテンツ	
	<input checked="" type="checkbox"/> タブレット (ios) <input type="checkbox"/> ノートPC・デスクトップPC <input checked="" type="checkbox"/> デジタルテレビ <input type="checkbox"/> 書画カメラ (実物投影機) <input type="checkbox"/> 電子黒板 その他 ()		PC ソフト名 ・ アプリ名 ・procreat ・iMovie	コンテンツ名 ・	
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> グループ学習 <input type="checkbox"/> 個別学習				
活用の場面・方法 活用のポイント	<input type="checkbox"/> 導入の場面 <input checked="" type="checkbox"/> 展開の場面 <input type="checkbox"/> まとめの場面				
	<p><どのように使ったか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・procreat を使い、絵を描く。作った絵を iMovie に貼り付けてつなげる。その後、絵に合わせてセリフを入れていく。できた作品に効果音を入れて完成させる。 ・procreat の活用ポイントは、絵のイメージを持たせ、写真を撮って、それを写し描きして、よりリアルな作品に仕上げられることである。 ・iMovie の活用ポイントは、場面に合わせて的確なタイミングで絵を入れることができることである。また、個人が作った場面をつなげるので、主体的に学習に取り組むことができるとともに、みんなで一つのものを作り上げる達成感を味わうことができることもポイントとして挙げられる。 				
児童生徒の 学びや活用の様子 (写真等)	<ul style="list-style-type: none"> ・procreat を使って絵を描く活動では、レイヤーをうまく使い分けることで効果的に絵を構成するとともに、色もイメージに近いものでぬることができた。 ・iMovie を使ってデジタル紙芝居を作る活動では、タイミングよくセリフを入れられなかったり、間違ってしまったりしても、すぐにやり直すことができ、自分たちが納得するものを作り上げることができた。 ・デジタルテレビに接続して、みんなでモニターを見て作成することで、よりよいものにするにはどうしたらよいか話し合い、すぐに修正することができた。 				
実践を通して 感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の導入時に、「みんなで地域の素材 (種まき桜) を使った電子紙芝居を作り、多くの人に袖崎の良さを伝えよう。」というテーマを設定することによって、みんなで一つのものを作り上げることと、身近な地域の良さを見たり、調べたりし、電子紙芝居を作って発信する意欲や気持ちが主体的な活動につなげることができた。 ・①実際に見学に行く。②マップを作る。③ストーリーを作る。④絵を描く。⑤声を入れる。⑥音楽を作って入れる。⑦ムービーを作る。⑧発信する。という活動を通して、主体的、創造的に取り組む姿が見られた。また、ベースとなる教科は総合的な学習の時間としながら、国語、図工、音楽で学んだことも生かしながら活動ができたことも成果として挙げられる。 ・より多くの人に地域のよさを知ってもらうための発信方法 (SNS, YouTube 等) をもっと考えていかなければならない。 				

